

金竜小の財産 新校舎完成



金竜小学校新校舎の完成を記念して12月6日、お祝い会が開かれました。真新しい校舎の前で、尾関市長、児童代表らがテープカットした後、児童全員が体育館に集合して合唱で完成を祝ったほか、関係者からこれからの関市の未来を担う子どもたちへエー

ルが送られました。学校耐震化に合わせ、昨年6月から建設を進め、めでたく竣工。18の普通教室や理科室、音楽室などの特別教室があり、屋根に太陽光パネルを備えています。より幅広い教育の場として、また地域に愛される学校として発展が期待されます。

あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



未来を照らす希望の光

冬の夜を彩るイルミネーションイベント「VIVA！関！真冬の祭典」が市役所南の市民広場を舞台に開幕しました。光のトンネルやツリーの中で、多くの来場者が幻想的な輝きに目を楽しませました。美しい光を見ながら、東日本大震災で被災された方の厳しい暮らしに思いを馳せて、関市で幸せに暮らしていることのありがたさ、復興や世界平和を考えることができるイルミネーションとなりました。

もち花で冬を華やかに

子どもたちに師走の行事・お正月準備の気分を感じてもらおうと、日吉ヶ丘保育園児が正月飾りのもち花づくりに挑戦しました。市内のボランティア団体「せきガイドグループ」の会員の方に教わりながら、紅白の餅を枝に巻きつけて行き、60センチほどのもち花を完成させました。中には、枝が見えなくなるまで、餅を隙間なくいっぱいにつける子も。園児は「楽しい、団子みたい」と笑顔を見せていました。





若手農業者がイチゴ栽培

大杉の「ふるさと農園美の関」で多くの農作物を栽培する若手農業者が、12月中旬からイチゴの収穫と摘み取り体験準備に追われています。広さ約5,000平方メートルの連棟ハウス内に、「章姫」「紅ほっぺ」の2品種を高さ約1メートルある高設の培地に定植。愛情を込めて管理しています。イチゴが眼前に広がる光景はたいへん見事です。学生時代から興味を持ち、活躍する農業の若い担い手が市内で育っています。

五・七・五に思いを込めて

俳聖松尾芭蕉十哲の一人である広瀬惟然生誕の地にちなみ、今年で6回目となる「全国子ども俳句コンクール作品展」が関市文化会館で開催されました。子どもたちの文化性・創造性を高め、豊かな心の醸成を目的としています。大人とは違い、子どもならではの自由な発想、感性あふれた作品が全国各地から数多く集められ、来場者を感心させていました。



丹精込めてゆべし作り

上之保地域在住の主婦でつくる「かみのほ特産品加工組合」の組合員が、ゆずとみそを使って作る伝統の保存食「ゆべし」作りをし、12月上旬最盛期を迎えました。ゆずの中身をくり抜き、自家製のみそやくるみなどを詰めて蒸した後、和紙に包んで2~3カ月ほど自然乾燥させて完成させます。薄く切って酒の肴やお茶受けに。一つ一つ手間暇かけて仕上げた独特の風味と香りがある珍味です。

観光関係者が関を巡る

関市観光協会が2回目となる「観光バスツアー」を開催し、市の観光資源の魅力を名古屋圏の旅行代理店などの観光業者やマスコミにPRしました。今年は「刃物のまちの産業観光」をテーマに、刃物関連会社の工場内や展示館、博物館、古式日本刀鍛錬などを見学したり、ご当地グルメ関あゆ丼も食しました。今後、工場見学可能な会社や内容をリスト化して、観光業者や一般向けに情報提供していく予定です。



こぼれ話



皆さんにとって、2011年はどのような年でしたでしょうか？また、2012年はどんな年にしていきたいですか？

振り返ってみると、昨年関市ではいろいろなことがありました。4~5ページにも記載していますが、3月に東日本大震災が発生し、関市でも被災地へ職員派遣や補給物資を届けるなど支援を行っています。8月には、関商工野球部が創設以来、夢の甲子園出場を果たしました。9月には、県内最年少首長となる尾関市長が誕生しました。他にも、ぎふ

清流国体リハーサル大会、はもみんナンバープレート、アユカ導入など大きな出来事がいっぱいありました。

2011年の印象を私が一言で表すと「一体感」です。震災の際、市職員ということだけでなく仲間として使命感にも似た一体感を。関商工甲子園初出場の際は、市民の皆さんと共に喜びの一体感を体験しました。また、尾関市長が誕生し、関市をより良くするという熱い想いの一体感も感じました。今年はその「一体感」をより成熟したものに変わっていきたいと考えています。

皆さんの2012年が良い年になりますように。